

教育研究所だより

令和8年度（2026年度）

9月号（通算266号）

き どう 輝 動

（きどう：子どもが輝き、躍動するまち）

近江八幡市教育研究所

TEL 0748-36-5574

FAX 32-3352

メール

044800@city.omihachiman.lg.jp



「動」

近江八幡市立老蘇小学校 校長 川端 哲巳

初任者の時に先輩の先生からいただいた鉛筆立てに「動」の文字が書かれていました。同じ学校で3人が初任者として勤めたのですが、それぞれに違った一文字をいただきました。いただいたときはピンとこなかったのですが、今振り返ると意味の深さを感じています。

初任の学校で、掃除の時間に生徒と一緒に雑巾がけをされている先生がおられました。はじめのころは掃除のとき箒を持っていたのですが、真似してみようと生徒と一緒に雑巾がけをするようにしました。以後、掃除のときは雑巾がけを積極的にやっていました。その後、転勤した学校で、掃除が進んでおらず「掃除しよう」と注意すると「しゃーないなあ、先生が言うなら掃除するわ」と掃除を始める生徒がいて、姿を見せることの大切さを再認識しました。

これも初任の学校のことですが、野球部の顧問になり、野球経験がなかったのでノックがうまくできませんでした。そこで、生徒が練習をしている横でキャッチャーフライを打つ練習をしていました。何回やってもなかなかうまくできませんでした。生徒が卒業後「ノックの練習をしている姿を見て、自分も練習を頑張った。」と言ってもらい、とてもうれしい気持ちになりました。声をかけるだけでなく一緒に動くことの大切さを、生徒からも教えてもらいました。

それから、できる限り子どもと一緒に動くことを心がけてきました。体育大会の取組の時に生徒が裸足になっていたら、裸足になって足の裏の熱さを体験する。一緒にダンスの練習を試みる。全く同じことはできないのですが、一緒に動くことで生徒の気持ちを少しでも理解しようと努めました。一緒に動いていると視野が狭くなるので、全体を客観的にみる視点は欠けていたかもしれませんが、共感的にみることはできたと思います。初任のころ、口先だけで指導していた私に対して、“もっと動きなさい”と「動」の文字を贈っていただいた意味が教職を重ねる中で少しずつ理解できたと思います。

今、学習指導要領改訂の論点整理で「『主体的・対話的で深い学び』の実装」が謳われています。教師には知識・技能を“教える”だけではなく、知識・技能を活用し、学びを深めるために“伴走する”ことが求められています。学習単元のゴールを設定し、子どもの学習に“伴走する”ためには、教師も学び続ける必要があります。

これからも「動」を意識し、学び続けたいと考えます。

【研修・研究事業報告】

★第2回近江八幡市初任者研修

日時 6月30日(火)

場所 桐原小学校(午前)

沖島小学校(午後)

□「学校事務と給与制度」

桐原小学校 永野 ともこ 主任事務主査、赤部 大介 事務主査

□「近江八幡の歴史について」

教育研究所 五嶋 弘道 学校支援コーディネーター

□「沖島の歴史と文化について」

沖島小学校 白寄 治 校長

「学校事務と給与制度」を受講して、今後に生かそうと考えたこと

・事務職員も「チーム学校」の大切な一員であり、その連携が子どもたちの成長につながっていることを学びました。特に印象的だったのは「三方よし」という言葉です。今勤務している小学校では、子どもたちみんなが事務職員の名前を知っています。これはまさに、事務職員が普段から子どもたちと温かく関わり、信頼関係を築いてくださっている素敵な姿なのだと改めて実感しました。今後は、事務職員と一緒に学校を創るパートナーとしてもっと積極的にコミュニケーションをとっていきたいです。

「近江八幡の歴史について」を聞きもっと知りたいと思ったことや児童生徒に伝えたいこと

・近江八幡の歴史に触れ、八幡堀やヴォーリズ建築、安土城跡といった貴重な建造物が、何百年もの間、地域の人々の手で大切に守られてきた事実に深い感銘を受けました。私自身、この土地の歴史や先人の歩みについてさらに学びを深めたいと強く感じています。今後は児童に対し、これらの歴史的遺産の素晴らしさや、文化を繋いできた昔の人々の努力を伝えていきたいです。そして、その努力の積み重ねの上に現在の豊かな生活があることを子どもたちに実感させ、郷土への愛着や誇りを育むような教育活動に繋がりたいです。

「沖島小学校長講話」「沖島小学校見学」から学んだこと、実践に生かそうと考えたこと



・沖島ならではの歴史や文化、地域の特色について知ることができ、普段勤務している学校とは異なる教育環境に触れる貴重な機会となりました。特に、島の歴史や人々の暮らしが学校教育と深く結びついていることが印象に残りました。沖島小学校では、少人数だからこそできる、一人ひとりの子どもに寄り添った教育実践を見ることができました。子どもの様子を細かく把握し、それぞれの良さや課題に応じて丁寧に関わる先生方の姿がとても印象的でした。また、子どもたちも落ち着いて学習に取り組み、地域とのつながりを大切にしながら学校生活を送っていることが伝わってきました。この学びを生かし、一人ひとりの子どもに寄り添った指導を心がけていきます。

(受講者の振り返りより一部抜粋)

★夏季休業中の講座：教育相談講座(全3回)

講師：市教育相談室 吉山宜秀 専門員

講座1(7.23)：不登校支援のために必要な情報の集め方

講座2(7.30)：ケース会議を効果的に進めるためのアセスメントの視点～子どもの行動レベルで記述する～

講座3(8.4)：不登校支援対策～データから見る市内の不登校の現状～

第1回では不登校支援において情報は本人の状態の「見立て」をするためのものであり、「BPSモデル」「保護要因」「行動レベル」の3つの視点から収集するべきだということ、第2回では「行動レベル」で記述することの重要性和問題解決型ケース会議の6つのステップについて学び、そして第3回ではデータから本市の不登校の状況を明確にとらえ、「復帰率を高めるために」また「新規不登校率を低減させるために」できることを話し合いました。3回の講座内容に連続性があり、専門的な知見から目の前の子どもたちを見る視点を教授し、今後の具体的な取組へとどんどん学びが深まる研修でした。

問題解決型ケース会議

- ステップ1: 問題の明確化
- ステップ2: 子どもの強みの確認
- ステップ3: 支援目標の設定
- ステップ4: 問題の背景要因
- ステップ5: 支援方法について案を出し合う
- ステップ6: 支援方法の選択と計画



・データ分析を通して不登校支援の在り方を模索していくことの重要性に気付きました。復帰率を高めるためには適切な支援が必要であること。いかに多くの情報をもとに適切な見立てをするかが重要だと知りました。新規不登校率を低減するためには、子どもの変化に気付き未然防止することが最も重要なことだと知りました。

★夏季休業中の講座：保育・授業力アップ講座（ネタの種講座）

講座1：「就学前教育における実践交流会」	講座2：「福利厚生 of 事業を活用しよう！パートⅡ」 「ちょこっと勤怠」
8月3日(月) 会場：岡山小学校 音楽室	8月6日(木) 会場：馬淵小学校 被服室
担当：近江八幡市役所 幼児課	講師：馬淵小学校 名内 政美 主任事務主査
【参加者の感想】 ・様々な手遊びや運動遊び、活動の事例を知ることができ、とても参考になりました。明日からでもすぐに取り入れられるものもあったので、実際に保育に取り入れていきたいです。 ・すぐに保育に生かせる遊びばかりで、取り入れていきたいと思いました。また自分だけでは思いつかないアイデアもたくさんあり、色々なアイデアを聞き、新しい知識となりました。	【参加者の感想】 ・いろんなことを知っているのと知らないのとで、私たちや職員の福利に大きく影響してくると感じ、自己研鑽が絶えず必要と感じました。馬淵小、楽しそうですね!! スキルアップ研修に事務職員も参加していて素晴らしい。私たちは参加するものではないと思っていました、これで備品が購入できるとは思ってもいなかった。うちの小学校でも何か利用して使いたいと思います。
講座3：プログラミングキット「MESH」を使った理科の授業	講座4：「小・中外国語教育における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実～理論と実践を通して～
8月6日(木) 会場：武佐小学校 理科室	8月7日(金) 会場：金田小学校 会議室
講師：武佐小学校 徳田 辰行 教頭 安土中学校 尾本康暢教諭 , 八幡東中学校 竹井康二教諭	講師：岐阜大学 異 徹 教授 アルティアセントラル ALT スーパーバイザー
【参加者の感想】 ・初めてMESHというものを使いしました。プログラミングを楽しみながら学習できてとてもいいなと思いました。影の動きや天気・太陽の学習など、1日の中で何度も観察しないといけない学習などで使えると便利だなと思いました。とても楽しい講座でした。	【参加者の感想】 ・可動域を広げるという言葉が印象に残りました。生徒が自信をもって英語を使えるように、土壌をつくっている途中ですが、より子どもたちが自分の力で学んでいけるように校内で何をすればよいか考えていきたいと思っています。アルティアセントラルの方々の研修も大変わかりやすく、ためになりました。
講座5：「子どもが問いを立て、自ら読み進める国語科の授業づくり」	講座6：「学年経営講座」
8月18日(火) 会場：北里小学校 5年1組教室	8月19日(水) 会場：学校給食センター 研修室
講師：北里小学校 谷口 美樹 教諭	講師：八幡小学校 木村真由美教頭, 金田小学校 荒金毅教諭 八幡西中学校 岡本由佳教諭, 安土中学校 尾本康暢教諭
【参加者の感想】 ・教材研究の時に系統性をしっかり確認すること、国語科の学習で使う言葉をためていくことを二学期に実践していきたいです。そして「問い」を立てるとは何か、自分自身でもう一度考えていきたいと思いました。 ・問いを立てるときに、子どもの興味をひくだけでなく、付けたい力を考え、分かりたい!! できるようになりたい!! というゴールを設定する大切さを改めて感じました。子どもの実態に合わせて単元の流れを考えて授業したいです。	【参加者の感想】 ・初めて学年主任をする中で、悩みや困っていることが、今日の話で気持ちが軽くなりました。これからはスケジュール管理など、学年の先生が働きやすいように気を付けてやっていきたいと思いました。 ・同校種の学年主任に質問形式で考えが聞けたのがよかった。私自身の考えと比較したり、自身の学年の様子も思い浮かべながら考えることができました。

講座 7:「特別な支援を必要とする児童・生徒の理解と指導」 「保健室から見る子ども～頻回来室をどう見るか～」	講座 8:「鑑賞授業へのつながりを意識した歌唱指導」
8月21日(金) 会場:市役所 4F 委員会室②	8月21日(金) 会場:岡山小学校 音楽室
講師:桐原東小学校 船津 京子 教頭 学校教育課 中村 小百合 指導主事	講師:八幡西中学校 佐藤 光音 教諭
【参加者の感想】 ・2学期からの子どもたちとの毎日を「頑張ろう!!」と思えました。目の前の子どもたちの姿を見取り、周りの人と共有し、目標を決めて、改善や成長を喜び合える毎日にしたいです。健康な体と心で生きていることの素晴らしさや、あなたのことを大切にしているよという思いをしっ  かり伝えていきます。これからいろいろな分野の先生方に出会い学びたいです。	【参加者の感想】 ・単に曲を聴かせるだけの鑑賞ではなく、聴くポイントを提示（リズム・テンポ・強弱など）することで子どもたちの考えるヒントになることや、曲がどのように描かれているかを順番を並べ替えることで気付かせるなど準備がやっぱり必要だと学びました。 ・中学校の先生が小学校の音楽科教材を分析してくださり、言語化（整理）してくださったのが、大変わかりやすかったです。鑑賞教材の秘密（裏側？）要素など、学んだことを本校の先生、子どもたちに伝えたいです。 
講座 9:「探究的な学びを探究する」	講座 10:「思考ツールを実装しよう～ロイロノートでの効果的な活用を考える～」
8月25日(火) 会場:金田小学校 多目的ホール	8月25日(火) 会場:金田小学校 多目的ホール
講師:八幡幼稚園 廣田忠史教諭, 老蘇小学校 森下俊秀教諭 生き抜く力育成プロジェクト実践チーム	講師:関西大学 黒上 晴夫 教授 株式会社ロイロ
【参加者の感想】 ・あらためて日々の保育一つひとつが教師主導か子ども主導かを見直すきっかけになりました。遊びがこうなったらいいなと環境を用意していても、実際の子どもたちの興味、いきつくところは違うことがこれまでの経験からたくさんあります。環境を用意する、言葉をかけることはとても大切ですが、その到達はどこへ行ってもOKだと、柔軟に受け止められる教師でありたいと思いました。 	【参加者の感想】 ・教師が一方向的に教える授業ではなく、自分たちで調べて、自分たちで考えを説明できる力を付けるためにも、シンキングツールを使うことは効果的だと思った。 ・AI ツールの台頭によって思考をすることをやめてしまう、もしくは消極的になりがちですが、児童に思考することをどんどん促す必要があるので、そのためにシンキングツールを活用することの重要性がわかりました。 

★令和8年度 生きる力から『生き抜く力』育成プロジェクト調査研究（2年次）

8月31日に文科省より、次期学習指導要領等に向けた審議まとめ（素案）が出ました。“次期学習指導要領の基本的な方向性”並びに“基本的な方向性を踏まえた各教科等の方向性”が書かれています。この資料を読み解くにはかなりの時間を要しますが、近江八幡市で育みたい『生き抜く力』、そのために『探究的な学び』が欠かせないという方向性は、国の方針と一致していることは確かです。

本調査研究で進めている「ナイストライ」と「学びに夢中」の2本柱の実践が、近江八幡市の子どもたちにとって、そして教員みなさんにとってこれからの学びの道しるべとなるよう取り組んでいきます。

今年度は下記研究校並びに研究協力教員の力を借りて実践しています。ご協力ありがとうございます。

☆研究校	八幡小学校（担当：天野 稔 教諭）	八幡中学校（担当：西山 晶博 教諭）
	安土小学校（担当：森田 祐斗 教諭）	安土中学校（担当：安岡 郁弥 教諭）
☆研究協力教員	八幡幼稚園 廣田 忠史 教諭	金田幼稚園 今西 慈 教諭
	桐原小学校 井本 匡子 教諭	岡山小学校 木ノ本 鈴賀 教諭
	北里小学校 松田 翔太 教諭	八幡東中学校 山本 祥穂 教諭

【お詫び】教育研究所だより「輝動」（7月号）において、研究奨励応募者（安土小学校）のお名前に間違いがありました。正しくは磯貝堅澄教諭です。申し訳ありませんでした。お詫びして訂正いたします。